ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌　2024

Take free!

なび

11月号
vol. 213

ナイスなある日
「身近な薬局、頼れるパートナー ナイス薬局」

特集

障老病生 の物語

at Nishinari
from Nishinari

西成で/から…➡13♥

第三回　若年性認知症になったある女性の物語

障老病生の物語

at Nishinari
from Nishinari

西成で／から…➡13♥

第三回　若年性認知症になったある女性の物語

「障老病生（しょうろうびょうしょう）」とは、仏教の「生老病死」をもじって、「障害を持つこと」「老いること」「病気になること」「人と違った人生を生きること」を意味する造語です。
本人もその周りの人たちも、とまどいや不安など、いろんな気持ちを抱きながら、一人ひとりの物語を紡いでいます。その物語に寄り添いながら、「福祉って？」「幸せって？」「地域って？」など、みなさんと一緒に考えていければと思います。
※サブタイトルの意味は、最終回に…

はじめに

さて、障老病生の物語、第三回目の今回は、認知症の人の物語です。

西成区北西部で活動している私たち社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会では、1995年に開設した鶴見橋地域在宅サービスステーションにおける認知症対応型デイサービスにはじまり、特養や認知症グループホーム等の入所施設（143名）、ヘルパーやケアマネ（54名）など、現在、197名の認知症の人の支援を試行錯誤しながら行っています。その中でも今回は、働きながら自身の認知症と向き合ってきた女性の物語に寄り添うことで、考えたことについて書いていきたいと思います。

まずは「受容」から～本人と周りの人たち

「私より給料が高いくせに…　なんで職員の面倒まで…　一緒に働くなんて無理や！」
「なんでそんなに怒るの？　そんな目で見ないでほしい…　そんなに悪いはずはない！」

前者は、Aさんが認知症と診断される前の同僚たちの声。後者は、その時期のAさん自身の声です。

高齢者の入所施設で介護福祉士として働いていたAさんは、今から10年ほど前の50代半ばごろから認知症の症状が出始めました。最初は更年期障害かもと思っていましたが、時間がわからなくなって遅刻してしまったり、業務記録で誤字脱字が増えてきたり、申し送りや業務手順を失念することが増えてくるにつれて、本人も周りも違和感が膨らんできました。

Aさんは、子どもの頃から歌がうまく、前向きで明るい性格で、また、プライドが高く負けず嫌いの面もあります。そのような性格や周りの職員の無理解などもあり、冒頭の言葉のように、お互いにとって苦しい時期が続きます。

若年性認知症とは、40歳から64歳に発症した初老期認知症に、18歳から39歳までに発症した若年期認知症を加えた認知症の総称です。「若年性認知症」という独立した病気があるわけでなく、発症年齢で区分した概念であるため、様々な原因があります。

一般的な若年性認知症の初期症状としては、性格変化や言葉が出にくくなる、などがいわれており、うつ症状や精神的ストレス、更年期障害などと似ている場合があり、高齢者の認知症に比べて、専門の医師による診断が必要なことがあります。

Aさんの場合は、物忘れがある一方で、対人コミュニケーションの能力についてはほぼ変わらないという特徴がありました。長年介護職として培ってきた能力なのか、認知症のご利用者との関係づくりや相談に乗ること、笑顔が絶えないことなど、Aさんの働きぶりを見ていて、周りの職員の関わり方も徐々に変わってきました。

その後、旧知の同僚の親身な関わりや他の同僚のサポートもあって、Aさんは専門の医療機関を受診し、アルツハイマー型の認知症と診断されました。

ここから、Aさんの仕事と生活をどのようにアシストするか、本格的に動き出すことになりました。

認知症の種類別一覧表

※1 見当識障害…時間・場所・人物が認識できなくなること
※2 パーキンソン症状…手足が小刻みに震えたり、筋肉がこわばるなどの症状

種類	初期症状	特徴	進行・経過
アルツハイマー型認知症	もの忘れ	見当識障害	記憶障害や見当識障害からゆっくり進んでいく
血管性認知症		感情をコントロールできない、手足のしびれ	脳梗塞などが引き金となり、認知機能が段階的に悪化する
レビー小体型認知症	幻視、妄想、うつ症状	幻視、妄想、パーキンソン症状	調子が良いときと悪いときをまだらに繰り返して進行する
前頭側頭型認知症	身だしなみに無頓着、同じ言動や行動を繰り返す	人格が変わる、自発性低下	ゆっくりと年単位で症状が進行する
アルコール性認知症	もの忘れ	アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症を併発していることが多い	症状が突然悪化する
神経原線維変化型老年期認知症		90歳以上に多い	記憶障害がゆっくり進行していく
嗜銀顆粒性認知症	軽いもの忘れ	記憶障害は軽い、アルツハイマー型認知症の合併例も多い	進行は遅い

出典：玉岡晃（2024）「【専門医監修】認知症４種類の特徴と症状を一覧で解説」みんなの介護（2024/10/15取得、https://x.gd/YyWuU）を基に作成

「認知症の人にとって安心できる場所」＝「誰もが安心できる場所」

診断については本人も相当ショックを受けていましたが、持ち前の意志の強さや生活のために仕事をしなければならないことなどから認知症を受け入れていきます。

仕事については、これまでのフルタイムの勤務からパートタイムに変更となる一方、要介護認定の申請や精神保健福祉手帳の申請を行いつつ、今より家賃の安いアパートに引っ越し、生活保護の申請を行いました。

仕事の内容では、これまでの介護職としてではなく、食事の配膳やシーツ交換などの介護補助業務を中心にしてもらうようになりました。その際、お皿を持ったままじっとしていることなどがあると、今までであれば、冷たい視線を向けていた同僚も「何か困っていることある?」などの声かけにより、Aさん自身も自分がわからないことをわかるようになって、次に進めることができるようになってきました。

しかしながら、そういう状態も長くは続きません。若年性認知症は症状の進行が速いことがあり、「数字が読めなくなる」「字が書けなくなる」「お風呂に入れなくなる」「トイレの場所がわからなくなる」など、仕事を続けるのも難しい状態になってきました。Aさんの希望は「仕事を続けて、一人暮らしも続けたい」ですが、周りの同僚や支援者の思いは「気持ちはわかるけど… 難しいのでは…」というもの。支援する側としてもできる限り本人の希望に寄り添いたいという気持ちと現実との板挟みで葛藤する日々が続きます。

お金の出し入れなど金銭管理が一人で難しくなったことが決定的でした。仕事や一人暮らしを続けることをあきらめ、施設入所を希望されます。家族とも疎遠なAさんは、周りの勧めもあって、Aさんの知り合いが多い、これまで働いてきた施設に入所することになったのです。認知症の症状が出始めてから、7年目の冬のことでした。現在、財産管理は成年後見制度を利用し、介護保険では対応できない外出支援を障害福祉サービスのヘルパーを活用しながら買い物に出かけたり、施設の自室を自分の好きなインテリアでコーディネートするなど、自分らしい生活を楽しまれています。

世界で6千万人、3秒に1人増え、2050年に1・5億人になる認知症の人

日本の認知症の人は約600万人、前駆症状といわれる軽度認知障害（MCI）のある人がほぼ同数とされ、あわせて1200万、約10人に1人が何らかの認知機能障害があると推測されています。

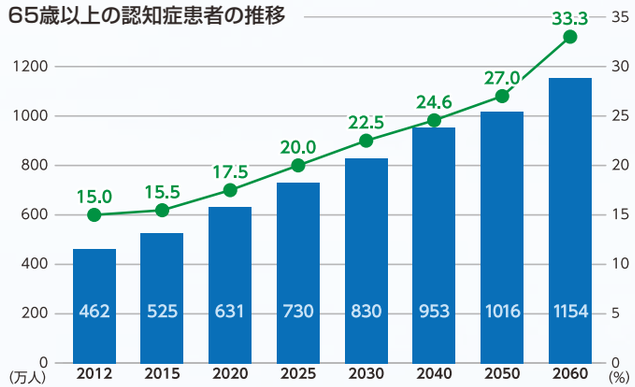
認知症とは、脳の細胞が病気や外傷によって障害がもたらされ、日常生活に支障をきたすことが、概ね6か月以上続く状態を指します。原因は様々で、アルツハイマー病が6～7割、確実な予防法や治療法はまだ発見されていません。そのことも相まって、「認知症の人は何もわからない」、「人格が崩壊する」、「ああなったらお終い」など、誤った認識や差別も根強くあります。

認知症は英語で「ディメンシア（Dementia）」、その語源は狂気、知性を失うという意味のラテン語、中国語では「失智」といわれます。2004年、日本では差別的意味を含む「痴呆」という呼称をより医学的な症状の表現に近い「認知症」に改められています。

障害者運動の考え方で、"Nothing about us without us"（「私たちのことは私たち抜きに決めないで」）という考え方があります。この考え方は認知症の人の支援についても当てはまると思います。なぜなら、どのような状態であっても、認知症の人自身の意思を尊重し尊厳が守られる社会こそ、誰もが安心して暮らせる社会と考えられるからです。

今年は、認知症の人が尊厳と希望をもって暮らせる共生社会の実現を目指した認知症基本法が施行された節目の年でもあります。皆さんはどのように思われますか?

これからも障老病生の物語に寄り添いながら、一人ひとりが幸せになれるように、試行錯誤を続けていきたいと思います。



平成29年度版高齢社会白書（内閣府）を基に作成

おわりに

いかがでしたでしょうか?

私たちは、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりと認知症の予防というある意味矛盾した分野を統合させ、今年で7回目となる「オレンジまつり」という認知症啓発イベントの開催やりんごの会という認知症の人の家族会のアシストもしています。また、法人運営の診療所では認知症外来も行っていますので、何か気になることがございましたら、ご遠慮なくご相談ください。

障老病生の物語は、次回で最終回となりますが、お付き合いいただければありがたいです。

文責：(社福)ヒューマンライツ福祉協会
法人本部・障害者支援部　部長　屋代直信

更生の道のりで見つけた新しい「表現」のカタチを
よりそいネットおおさかが紹介します。

あんたのセンスにあっぱれ！

第1回 出所者アーティスト"と"表現するPower of Art展

梅雨時の6月23日、関西大学堺キャンパスで学園祭が開催された。堺キャンパスは、自治体と協働するなど地域密着型のキャンパスとして知られている。ここでは、学生たちがスポーツや福祉を通じて「ウェルビーイング」について学んでいるそうだ。

今回、よりそいネットおおさかは、関西大学の所ゼミと協力してアート展を開催した。学生たちが中心となって前例のないプロジェクトを1年にもわたる企画・準備期間を経てついに当日を迎えた。タイトルは「出所者アーティスト"と"表現するPower of Art展」。全てのアーティストが「出所者」であり、各作品は、彼ら・彼女らの「分身」であるということに最後までこだわった。アートも出所者支援も未経験の学生たちだったが、本テーマに至るまでには、刑務所内の見学や当事者との対話を通じて出所者支援について理解を深め、丁寧に準備を重ねるプロセスがあった。学生たちにとっても集大成の場であったことだろう。あっぱれ！

展示の際にこだわったのが、出展された作品に対して学生たちが「応答する」ということ。各作品からアーティストの想いを読み取り、それに応えるようにして作品を作ることで作者との対話が生まれていた。会場の一角には来場者も作品を制作できるブースが設けられており、時間と共に応答作品が増えていく様子は作品を通じたコミュニケーションそのものだった。

作品は大阪府内に在住のアーティストから集められ100点以上にも及んだ。キャンパス祭ということもあり、世代を問わず様々な方が来場する様子からは「刑務所」「出所者」という言葉は微塵も感じられなかった。来場者同士の交流が自然と生まれていた様子は、まさしく「地域」での1コマであった。言うまでもなくアーティストたちは、既に地域の人として毎日生活を送っている。そんな彼ら・彼女らにとって、この場は想いのままを表現できた「自己実現の場」であり、もっと自分を好きになる「I love me」で溢れた空間であった。あっぱれ！

一般社団法人よりそいネットおおさか

〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4-15
大阪府社会福祉会館2階
TEL/FAX：06-6711-0130
HP：https://www.yorisoi-osaka.jp

よりそいネットおおさかは、刑務所等の矯正施設を退所した人たちの支援や、支援者との関係づくりに取り組み、ネットワーク型の福祉構築を目指した活動を行っています。

[沖田一志]老眼鏡を購入した。今まで見えてるつもりだったパソコンの画面が楽にクッキリ見えて、本当は見えてなかったことを実感した。不便な時だけ使うつもりだったが、普段使いになった。

[磯拓哉]10月吉日、雨が続く中晴天に恵まれソフトボールの試合を行った。この日、チームで初めて勝利をした。喜びと程よい疲れに酔いしれた。代償は運動不足による筋肉痛でした笑。

[田岡秀朋]ほしだ園地に天の川ができました。ほしのブランコ(つり橋)のライトアップが10月からスタート。七夕のまち交野の新名所に育ちますように。。

[笹川勝正]先日仕事の情報収集のため教育展示会に参加しました。ICT教育を中心とした展示に時代の流れを感じつつ、昔の職場の恩師に偶然10年ぶりに会ったことが驚きでした。

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのてっちり系コラム。

『微増に転じた西成区の人口！』

大阪市役所の統計サイトでは、住民票をもとにした三か月ごとの詳細な区別データが公開されている。五歳刻みや町丁別の人口動態に加え、外国人の動向も把握できる。西成区の人口動向をみると、二〇二二年三月の一〇万四三三四人を底に人口減少が止まり、二〇二四年六月時点では一〇万五四〇一人と、二年以上にわたり微増が続いている。二〇一〇年代後半からの減少ペースの鈍化は認識していたが、十万人を切るのは避けられないと予測していた。しかし二〇二〇年代に入ると減少が止まり、ついには微増という局面に入った。このメカニズムを探るため、住民基本台帳に基づく二〇一九年六月末と二〇二四年六月末のデータを比較してみた。

次のグラフは、二〇二四年六月時点の各五歳区分の人口が、五年前とどう変化したかを示している。プラスは転入超過（＋自然増）、マイナスは転出超過（＋自然減）を意味する。二〇一九年六月末時点は人口が底に達する前で、一〇万五六六一人、二〇二四年六月末時点では一〇万四五〇一人と全体としては約千人の減少である。さらに詳しく、若年層と高齢層の対照的な動きに注目しよう。

図：２つの時点（2019年6月と2024年6月）における西成区の年齢別人口転出入の変化（大阪市住基統計より）

二〇～二四歳は男女ともに転入超過が千人台後半に達し、二五～二九歳でも男性が千人を超えている。一方で、七五～八九歳の三つの年齢層では、男性が千人台後半の転出超過／自然減、女性も相当数の転出超過（自然減）が見られる。また、三〇～六四歳の男性の転入超過が少数ながら確認できる。

このように、若年層の男女の顕著な転入と、中年層の男性の穏やかな転入が、七〇歳以上の激しい転出・自然減を上回った結果、全体人口が微増に転じたのである。

読者が予想されるとおり、若年層の著しい転入は外国人である。詳細をみると外国人の転入超過は、二〇～二四歳では男性一四三二人、女性一二〇六人、二五～二九歳では男性三六四人、女性三六〇人であった。グラフの同年齢層の超過の数値と比べて、八割方が外国人である。外国人人口は、同期間において九〇六五人（八・五％）から一万三六一九人（一三・〇％）に増加し、特に二〇～二四歳では男性の四六・四％、女性の四六・〇％、二五～二九歳では男性の三四・八％、女性の三七・五％に至っている。若年層の四割前後が外国人ということになる。

ただし、この年齢層の転出入の激しさには注意が必要である。二〇二三年度の他市区町村からの転入者数は二三八一人、二〇歳代では一五〇七人（いずれも浪速区に次いで二位）、国外からの転入者数は二五九九人（二位）。同時に、他市区町村への転出者数は二四二七人（生野区、浪速区に次いで三位）、二〇歳代では一四二二人（生野区に次いで二位）。国外への転出者数は三二三人（浪速区、中央区に次いで三位、職権消除は五〇八人（浪速区に次いで二位）である。

今後、外国人労働者が西成区でどのように定住の道を描くのか注視していきたい。

ハンプティ・T

［安田拓也］準備して動く。当然のようで出来ていない。演奏に雑音が混じる。本来準備→確認→弾くの動きが洗練され、間隔は短くなり、弾き終わると同時に次の準備が完了し弾く。これが無意識下で出来てこそ慣れ。

［福井龍磨］河内長野の「天野酒」という日本酒が美味しい。発祥は室町時代で、今も当時と同じ製法で造っているという。堺の「千利休」という銘柄も最近飲む機会があったが、こちらも歴史を感じる味だった。

melody of Smiles

GCCKidsの子どもたちはお外遊びがとても大好き！お外に出る日はとても楽しそうで、毎日のように屋上の園庭には賑やかな声が響き渡ります。年長さんは先生と一緒にお散歩へ。いつもとは違う場所に子どもたちは大興奮！思いっきり走り回りました！

大阪市の住民参加型地域組織「地域活動協議会」の活動に橋を架けよう「近ツ橋【ちかつきょう】」

近ツ橋

ノルディックウォーキング（北津守）

北津守地活協で9月からスタートしている取り組みがノルディックウォーキングである。

ノルディックウォーキングは1997年にフィンランドで、専用のポールを使用し、より簡単な健康運動として紹介されたのがはじまりといわれている。

当日は北津守老人憩いの家に15名ほどが集まり、ポールを利用した準備体操を行い、いざ出発。北津守老人憩いの家から西成公園（西成高校横の公園）を目指し歩いていく。天気は素晴らしいほどの快晴で、歩きながらのお喋りも自然と弾んでしまう。西成公園に到着し、みんなで記念撮影。本来ならここで戻るはずであったが、天気が良く気持ちよかったのか、西成公園をぐるっと1周するコースを追加。往復で2キロ弱の道のりだったので、体の疲れが残らないよう整理体操をして終了。

北津守地活協では、これから毎月1回ノルディックウォーキングが実施される。運動を楽しみながらの健康づくりで体も心もハッピーだ！

［西田吉志］長女（小学）、次女（保育）の運動会が無事におわった。家で見る様子とは、また違った子ども達の姿に成長を見たし感動した。３年後には中学、小学、保育と運動会が年に３回になるのか。

［谷口円］年齢や仕事もいろいろな95人の、同日同時刻の日記本を購入。普段は見えないけれどどこかにある、誰かの日常を感じるのが好きです。遠くのマンションについた灯りを眺めるのと同じ気持ち。

葉っぱの吐息（といき）

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。

四季があるのは日本だけではありません。地球温暖化で四季が無くなるといわれています。

「みんなが今出来ること」の巻

冷たい風がふく霜月（しもつき）。
知らず知らずに早足になる。
空を見たらうろこ雲。
ずっとずっと眺（なが）めてる。
目にはいった不思議な光景。
そっとそっと近づいてみる。
青紫の花とご対面。
どうしてどうして咲いている。
秋に咲くあさがおの花。
そうなんだそうなんだ初めて知った。
魅力いっぱいの日本の四季。
だけどだけど今は違う。
世界に咲く草花のため。
いつまでもいつまでも優しい地球でいたい。

赤井まゆみ

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちで皮算用していることを語っていくよ。

日本の政治はどのようになるのだろう？ 石破総理誕生後すぐに衆議院解散。政治とお金の問題が中心のようだが、今回、非公認になった安倍派の議員から恨み辛みが聞こえるが、そもそも「あなた達の行った事に端を発しているのではないか」と私は思う。関係議員全員の非公認が妥当だと思う。来年の参議院選挙も同じく。

党首討論では石破総理の苦悩が感じられた。野党党首の話は分かるがそうしたくても簡単に出来ないのが現実の石破総理の立場、大きな組織はそう簡単に動かない。野党党首もわかっていると思う。

与党も野党も真摯に意見交換をして国民のための政策や憲法改正、経済問題、賃上げを実現、それだけでうまくいくとも思えない。能登半島復興支援はすぐにでも予算化を行う必要があり時間をかけている暇はない。27日の選挙結果次第で何が起こるかわからない。

（寺本良弘）

いい湯かげん

総選挙が終わると政策の季節

今号の『いい湯かげん』は政治の話。お断りしておけば、この拙稿を書いているのは衆院解散の日で、読者に届くのは総選挙の結果が出た後になるから、ちょっとピンぼけになるかも。

自民総裁選は、岸田内閣が軍事費を上げた後に、次は高市早苗好戦内閣登場ではと心配したけど、石破さんが勝って最悪にはならなくて良かった。立憲民主党代表選は中道志向の野田佳彦代表になって良かったのだが、野田さんの「分厚い中間層」との主張には、低負担でも低福祉になってしまうのではと心配になった。そして、総選挙の結果は、ひょっとして与野党逆転、悪くても与野党伯仲となって、政策が前進するかもと期待する。

では、どんな政策が前進して欲しいかというと、軸は「脱貧困に解を出す」。つまり、格差・貧困議論はもう論より実践ということ。①まずは、1500円最低賃金。いま大阪の最賃は1114円で、ここまでは順調に伸びたが、掛け声ではなく4年ぐらいで1500円を実現する設計図を描くこと。描けるのは立憲民主党ではないか。肝は、労働組合の連合が提唱している下請・委託単価に労務費を積算すること。自治体では公共施設管理やNPOなどへの委託事業など、公契約の労務単価積算の改善。つまり、最賃上げろというより、上げられる道筋を示せということ。それこそ立憲民主党や連合の出番。②次に、都市部など巷にあふれる賃貸空家・空室の公営借上および家賃助成の創設で住居費の逆進性を是正する方策。ここは公明党に期待している。③続いて、都市の自治体が提案してきた生活保護の稼働年齢および若年者への短期あるいは単品給付。吉村知事や横山市長に期待する。④さらに、維新の会が提唱してきた地方先行の「身を切る改革」を国にも迫ることで教育無償化を実現すること。⑤そして、これは保険だから税のようには簡単にはいかないが、大阪市など都市部での介護保険負担軽減と、厚生年金と国民年金の斬新的統合。⑥さらに、脱貧困のセーフティネットは地域における相談支援体制の充実で、例えば重層的支援への自治体助成の拡充。この点で大阪市は重層的支援体制への移行準備中で遅れている。⑦最後は、「脱貧困の哲学は人権」という視点で、選択的夫婦別姓の実現。政策転換なくして何が政権交代か。反対しているのは高市早苗さんぐらいではないか。昔から「女性（差別）が変われば社会が変わる」と言われてきた。そこから包括的人権法制の議論が始まって欲しい。

現代の格差・貧困は沈澱している分、断絶していて「少数」と見間違いがちだ。しかし、我が孫、我が子の行く末を案じれば、一寸先は貧困と、その不安はかなりの「多数」の人々が感じているのではないか。しっかり向き合って政治を点検したいものだ。次の参院選は2025年7月、統一地方選は2027年4月、それまでにまた衆院選挙もあるだろう。いや早いかもしれない。

冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[若松司]今は10月の中旬にさしかかるところ。ここ1週間は秋らしい気候になっている。このまましばらく秋という季節を楽しめたらなぁと思う。今月号の「葉っぱの吐息」が訴えるように。

[山村裕太]『ドラゴンクエスト3』のリメイクが11月に発売されます。個人的に「お気のどくですが、冒険の書は消えてしまいました。」という地獄が無くなったことが一番嬉しいです。

地域の縁を心でつなぐ

松向寺の心の時間

若い頃、恩師が末期の癌で入院し、友人から「早くお見舞いに行かないと、二度と会えないよ」と聞き、急いで行きました。かなり悪い状態に見えましたが、「お元気そうですね」と裏腹な言葉しか発せませんでした。そんな私に帰り際「身体を大切にして頑張りなさいよ。また会える世界がありますから」とご教授を下さりましたが、何も返せずその数日後、亡くなられました。

「死」は自然の摂理です。産卵と共に死んだ鮭の死骸が稚魚の餌になることもあるように、「死」と引き換えに新しい「いのち」が生じ育まれます。しかし、ヒトは感情豊かに発達した脳を持ったが故に、死への恐れが他の生物と比べて非常に強くなり、「死」の苦しみを乗り越えてゆく道を模索してきました。「死ぬことは変わることの一つ」「残された者の心の中に生き続ける」などの思惟も模索の末に至った答えなのでしょう。

「また会える」という恩師の言葉に、今なら「お会いするのを楽しみにしています」とお返事できるかもしれません。

松向寺　通法

写真は人生の一部が映ったもの。ここは思い出や自慢の1枚を少しと紹介するコーナーです。

ワタシの1枚

『夜と水田を照らす町あかり』

とある農村の夏夜の風景。10月は毎年恒例、楽塾の稲刈りの季節。夏に田植えを行い、収穫したお米は美味しくいただきます。写真はそんな夏のホタル狩りの一場面。肝心のホタルは写っておらず、スマホカメラであの淡い光を捕らえきれず断念。お土産に夜景を。

（編集スタッフ 安田拓也）

ゆ〜とあい

smile

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 11月号（vol.213）
発行日：2024年 11月 1日（創刊日：2007年 1月 1日）
発行：株式会社ナイス
住所：大阪市西成区長橋 3-6-33
電話：06-6563-1150
E-mail:info@nice.ne.jp
url:https://www.nice.ne.jp/

編集長：西田吉志
編集：磯拓哉、沖田一志、笹川勝正、田岡秀朋、福井龍磨、安田拓也、山村裕太、若松司（あいうえお順）
イラスト：hidarimaki、西井亜花梨
デザイン：谷口円

（株）ナイス
ホームページ